

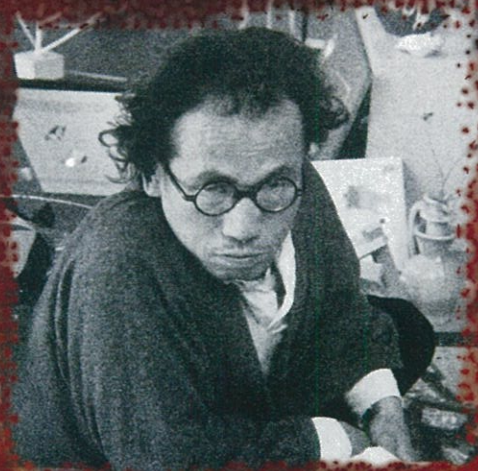
これが“いけばな”なのか?!

生誕100年記念上映

華いのち 中川幸夫

h a n a - i n o c h i n a k a g a w a y u k i o

常識を疑え! 固定概念をぶち壊せ!!



誰も見たことがない生命のartの誕生

主な登場人物

荒木経惟◎沢木耕太郎◎重森三玲◎勅使河原蒼風◎土門 拳◎早坂 暁◎中野重治
滝口修造◎三輪休雪◎エルベ・シャンデス◎森山明子◎大野一雄◎大野慶人(登場順)

ドキュメンタリー映画/2014年 HDカラー 92分/企画・監督・編集 谷光 章/製作・著作・配給 イメージ・テン

www.hanainochi.com

想像を超える創造に挑み続けた男

「何だか、死がさ、混じり込んでるエロスなんだよ」——荒木経惟

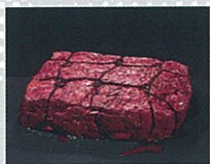
「華道界に対して、ものすごいテロリストが東京にやって来たという感じですね」——早坂 暁

「大野一雄の踊りも、中川先生の作品も精神の内部が外に咲いて出ている」——大野慶人

「美しいものに彼は復讐した。禁忌を犯す快感を味わった数少ない一人だ」——三輪休雪

白い陶オブジェに真っ赤な花びらを押し固めた塊が投げつけられる。
チューリップの花びらの塊をコテで粘土のように盛り上げて行く。
これが“いけばな”なのか？
押し固めた赤い花びらの塊が荒縄で縛り上げられている。
チューリップの花びらが腐敗し、まるで不毛の地のような島を形作る。
果たしてこれは“いけばな”と言えるのか？

前衛いけばな作家・中川幸夫が「いけばな」という固定概念と私たちが
花に抱く美意識を踏みにじってまで追い求めたものは、一体何だったのか？



闇ヒラク



ブルース



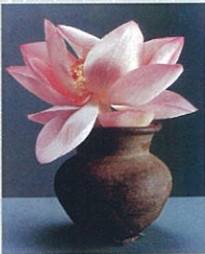
天空散華



連繫の肖像



ヒゲ



花狂

幼年期に脊椎カリエスを患った中川は曲がった背中と共に反骨精神を身につけてゆく。

流派いけばなの決まり事に疑問を抱き、花本来のあるがままの命をとことん見極めるため、最大流派池坊に脱退通知を叩きつけ、決然と香川・丸亀から東京に乗り込んだ中川に、当時飛ぶ鳥を落とす勢いだった草月流の勅使河原蒼風は「恐ろしい男が花と心の中にやって来た」と語ったと言われる。流派を否定し、弟子を一切取らない孤高のいけばな作家は、極貧の中で花の生き、死にと向かい合い続ける。

そして、花との極限の対話、闘い、おののきを経て、想像を超える作品を次々に生み出してゆく。長年に渡って書き綴られた創作ノートを通して、また本人が様々な創作誕生の秘密を語る。2002年に実現した念願の「天空散華」。

100万枚の色鮮やかなチューリップの花びらが天空から舞落ちる中、舞踏家・大野一雄が渾身の力で踊る。

これらの作品によって、中川幸夫は重森三玲の言う「永遠のモダン」を現代アートの世界に記したのだ。ここからは千利休に始まる日本の前衛の最先端が見えてくる。

協賛 ● 百十四銀行学術文化振興財団 協力 ● 中川幸夫事務所 / 重森三玲庭園美術館 / カルティエ現代美術財団 / 大地の芸術祭実行委員会 / 龍安寺 / 善通寺 / 求龍堂
映像提供 ● NHK / 日本テレビ / 小原流 / 重森貝塚 写真撮影 ● 中川幸夫 / 土門 拳 / 新居義久 / 牧 直視 他
スタッフ ● [ナレーター] 山根基世 / 大杉 漣 [撮影] 三橋好博 / 榎本秀男 / 宮田稔彦 / 野田好章 / 谷光 章 [ミュージックエディター] 井口明夫
[サウンドエンジニア] 引間保二 [録音スタジオ] アクエリアム [タイトルCG] 安田 誠 [イメージデッサン] 二宮陽香

使用写真の無断複写・転写を禁じます

8/18(土)-31(金)

東京都写真美術館ホール | JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分

地下鉄日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分

[恵比寿ガーデンプレイス内] TEL 03-3280-0099(代表) www.topmuseum.jp

特別鑑賞券 1,300円(税込) 特別鑑賞券は東京都写真美術館1階受付、または

www.hanainochi.comにてお求めいただけます。

当日 一般 1,800円 / 学生 1,500円 / シニア 1,100円 全席指定 / 月曜休館



問い合わせ先 ● イメージ・テン TEL 090-3802-2760

次の方は当日料金が割引になります ▶ 東京都写真美術館で開催の展覧会・映画の半券を持参の方(半券1枚につき割引は1回のみ) ▶ 東京都写真美術館バス停提示の方 ▶ その他、詳細は受付にてお問い合わせください